えりも岬緑化事業70周年記念

リン子とルンルン海の森づくり

えりも岬緑化事業の70周年を記念し、
この事業を題材とした映画の制作に取り組まれている田中光敏監督、
ミス日本みどりの大使の上村さや香さんを招き植樹祭を開催しました。

令和5年5月17日えりも岬百人浜にて、
地元の小学生など約600人が集まり、
緑化事業で最初に根付いた木である
クロマツを1,200本植樹しました。

緑化事業を題材とした映画「北の流氷(仮題)」を製作中

田中光敏 監督

「クランクインしたら皆さんにも映画に出てほしい。
あきらめないで植林を続け、夢をかなえた話を
皆さんと作り上げたい」

そして緑化は
未来へ続く

司会進行　ミス日本みどりの大使

上村さや香さん

えりも岬の風と寒さに驚きながらも、
「皆さんの熱意が伝わって、全然寒く
ありません！」と笑顔で大会の司会を
務めていただきました。

かつて「えりも砂漠」と呼ばれたほど荒廃していたこの土地は、強風により砂は舞い上がり、海岸線は赤土により赤く染まっていた。
昭和 28 年、えりも町の人々の思いが国を動かし緑化事業がスタート。けれど、その道のりは決して順調ではなかった。
強風により、蒔いた種は吹き飛ばされ、草原を蘇らせることも難しかった。試行錯誤を繰り返し、えりも独自の「えりも式緑化工法」を生み出すなど、関係者たちが地道な努力を続けた結果、動植物たちも少しずつ増え、緑豊かな森林が蘇りつつある。
昭和、平成、令和とつないできた「えりも岬の緑化事業」は今年 70 周年を迎える。

～植樹祭オープニングナレーションより～

令和５年５月17日、えりも町百人浜展望台において「えりも岬緑化事業70周年記念植樹祭」（主催：えりも岬緑化事業70周年記念行事実行員会）を開催しました。

この植樹祭は、昭和28年（１９５３年）に国有林治山事業による緑化事業が始まってから今年で70周年となることを記念し、この間の「えりも岬緑化事業に捧げた情熱」、「成功に至るまでの苦労」などを次世代の子供たちに伝え、これからのえりも岬の森林のあり方などを共に考え、絆をより一層深めてもらうことを目的に実施したものです。

ようこそえりも町へ
歓迎の旗が風になびきます

当日の朝、えりも岬は深い霧に覆われていましたが、開会式の時間が近づくころにはすっきりと晴れわたり、この記念植樹祭にふさわしい天候となりました。

会場には地元えりも町の他、近隣の様似町、浦河町からの小学生約３５０人を含む約６００名のみなさんが集まる中、みどりや木とのふれあいを通じてその大切さを広く社会に発信する「ミス日本みどりの大使」の上村さや香さんによるオープニングのナレーションに続き、日高南部森林管理署長の「開会宣言」で植樹祭がスタートしました。

植える前には「根を優しく広げてね」

開会式には特別ゲストとして、浦河町出身の映画監督で現在この緑化事業を題材とした映画「北の流氷（仮称）」を製作中の田中光敏氏が駆けつけてくださり「積み重ねる力は奇跡を起こす、決して諦めない、諦めなければ夢は叶う、その心を持ち続けたからこそ今のえりもがある。」と激励を込めた挨拶をいただきました。

その後、参加者のみなさんは、植樹方法の説明を受け、木々の成長を強風から守るための防風柵で囲まれた植樹会場へ張り切って移動しました。

そして、クロマツの苗木１２００本を、スコップで植え穴を一生懸命掘り、一本一本やさしく土をかけ、ていねいに植え付けていきました。

普段は風の音しか聞こえないこの森も、今日は笑顔と歓声でいっぱいになり、植樹を終えたあとは、苗木が大きく育ち森となる日に思いをはせながら記念撮影する姿が見られました。

「えりも岬緑化事業」は北海道森林管理局日高南部森林管理署と地域のみなさんが連携して進めてきました。今後もこの森を大切に守り育てていきたいと考えています。

（えりも岬緑化事業を６ページで紹介していますのでご覧ください）

スタッフに先導されて植樹会場へ

ていねいに植えたよ、元気に育て！！